

道前平野地区の田んぼ周辺の生きもの



道前平野の水路や田んぼ周辺にはどんな生きものが生息しているかな？
カエル・カメ・魚・エビ・昆虫・・・「地域みんなで調べてみよう！」
この下敷きには、道前平野に生息する主な生きものを紹介しています。

両生類

◆アカハライモリ

環：準絶滅
愛：準絶滅



水たまり、池、沼などの浅い止水に生息する。体は暗褐色から黒色で、腹面にはよく目立つ赤いまだら模様がある。

◆ニホンアマガエル



木や草の上で生活し、止水で産卵する。鼻から鼓膜の後ろまで黒条がある。指先に吸盤を持つ。

◆ツチガエル

環：-
愛：情報不足



水田や水路などに生息し、水辺からあまり離れない。背中にイボがあり、触るとザラザラする。お腹は暗色で小黑点がある。

◆ヌマガエル



水田付近に生息し、浅い止水に産卵する。背中のイボは少ない。触るとヌルヌルする。お腹は白い。

◆ウシガエル

特定外来



池や沼等に主に生息する。目の横に大きな鼓膜がある。牛のような声で鳴く。別名：食用蛙。

爬虫類

◆ミシシipp アカミミガメ

条件付特定外来



池や沼に生息し、春～夏に陸上の土中へ産卵する。眼の後方の赤い筋が特徴。最近までミドリガメの名で販売されていた。

◆クサガメ



外来種

池や沼に生息し、春～夏に陸上の土中へ産卵する。甲羅にある3本のうねが特徴。目から顎にかけて黄色い縞模様がある。

貝類

◆カワニナ



水が安定して流れる水路に生息し、有機物や藻類などを食べる。細長い巻貝で、ゲンジボタルの幼虫の餌として知られている。

◆スクミリンゴガイ

外来種



南米原産の外来種で、別名：「ジャンボタニシ」と呼ばれる。イネの食害が各地で問題となっている。卵は鮮やかなピンク色をしている。

◆マツカサガイ

愛条：希少
環：準絶滅危惧
愛：絶滅危惧Ⅱ類



河川や池沼の砂礫、泥沼に生息する。殻高4cm程度の楕円形の黒い二枚貝。殻の内側は真珠光沢が見られる。

甲殻類

◆スジエビ



池や沼などに生息する。体は半透明で黒い縞模様がある。別名：シラサエビと呼ばれ、釣りエサに使われる。

◆アメリカザリガニ



条件付特定外来

ため池や水田、水路などに生息する。ウシガエルの餌用として移入された外来種。体は太く、オスはハサミが発達する。

◆モクズガニ



海と繋がる河川や水路に生息する。はさみに藻くずのような毛をまと。古くから食用とされてきた。

◆ホウネンエビ



水田などに発生する小型の甲殻類。仰向けで鰓脚を動かして泳ぐ。体色は透明感のある白や緑色をしている。

◆カブトエビ類



外来種

田植後の水田に見られ、雑草を食べる。侵入経路は不明。農産物などの物資に紛れて移入したと考えられる。

昆虫類

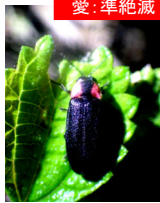
◆ゲンジボタル



幼虫はカワニナが生息する水路に生息する。ヘイケよりも体が大きく、発光が強い。

◆ヘイケボタル

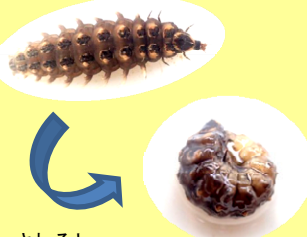
環：-
愛：準絶滅



緩やかな流れの水路や水田に生息する。ゲンジよりも体が小さく、点滅速度が速い。

ゲンジボタルの幼虫

終齢幼虫は 20～30mm



さわるとダンゴムシみたいになるまるよ！

◆コガタノゲンゴロウ

環：絶滅危惧Ⅱ類
愛：絶滅危惧Ⅱ類



体長は24～29mmで、休耕田や湿地に生息。側縁が黄色に縁取られ、体型は卵形。肉食で、小動物やその死がいを食べる。

◆コガムシ

環：情報不足
愛：準絶滅



体長は16～18mmで、池沼や水田、湿地に生息。背面は黒色で、体型は長楕円形。成虫は草食で、腐った植物や水草を食べる。

◆コイ

外来種



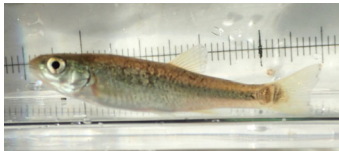
河川の緩やかな流れの淵や池に生息する。フナに比べ体型が細長く、口ヒゲがある。背ビレの付け根が長く、ウロコが細かい。

◆フナ類



用水路や池など広く生息し、水田や水田脇の水路などに侵入して産卵する。コイに比べ体高が高く、ウロコが大きい。口ヒゲはない。

◆タカハヤ



山間の渓流域や川の上中流に生息する。体長は 10cm 程度。体色は黄褐色から灰褐色。つかむとヌルツとしている。

◆オイカワ

環：
愛：情報不足



流れを好み、瀬で泳いで流れてくるエサを食べる。淡褐色で、体側は銀色。婚姻色の雄は体側が鮮やかな赤と青緑色になる。

◆ミナミメダカ

環：絶滅危惧Ⅱ類
愛：絶滅危惧Ⅱ類



水田に繋がる水路や池に生息し、水田に積極的に入り込んで産卵する。尻ビレの幅が広くて長いのが特徴。

◆ヒメダカ

改良品種



野生型のメダカが持つ黒色素を欠く改良品種。放流による野生メダカとの交雑が問題視される。

◆カダヤシ

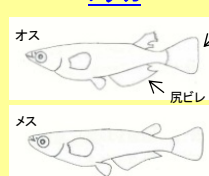
特定外来



メダカに比べ尻ビレ基部の幅が狭いのが特徴。メダカと競合し、駆逐することが問題視される。

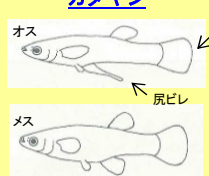
メダカとカダヤシの見分け方

メダカ



・尾ビレが角ばる
・尻ビレはオス、メスとも横長の四角形でオスの方が大きい。

カダヤシ



・尾ビレが丸い。
・メスの尻ビレは縦長で小さく、オスは尻ビレが細長い交尾器に変化。

◆モツゴ

環：
愛：準絶滅



水路や池などの止水域に生息する。下あごが突き出て上向きの尖った口をしている。体側に一本の暗色縦縞がある。

◆ドジョウ

環：準絶滅
愛：絶滅危惧Ⅱ



用水路など流れの緩やかな泥底に生息し、水田や水田脇の水路などに侵入して産卵する。体は細長く筒状、口ヒゲがある。

◆ナマズ



発達した口ヒゲで餌を探し、小魚や甲殻類、カエルなどの小動物を捕食する淡水域の生態系上位種。5-6 月に水田に侵入して産卵する。

◆ニホンウナギ

環：絶滅危惧ⅠB 類
愛：絶滅危惧Ⅱ類



河川に生息し、産卵は海に下る。近年、稚魚のシラスウナギの漁獲量が減少し、問題となっている。体は細長く、背ビレ、尾ビレ、尻ビレはつながっている。

◆ドンコ



水路や池などに生息し、砂底やレキ底を好む。体はずんぐりしていて頭が大きい。体の背面に黒い三角形と褐色のひし形模様が並ぶ。

◆トウヨシノボリ類



水の流れの緩やかな水路や池などに生息する。腹ビレは吸盤状になっており、壁にくっつくことができる。

◆カワヨシノボリ



流れのある川や水路に生息する。胸ビレの付け根に三日月模様の赤色線がある。胸ビレ条数は 15~17 本。

◆オオクチバス

特定外来



別名ブラックバス。ため池や流れの緩やかな河川下流域に生息。下顎が前方に突き出る。捕食など外来種に影響を及ぼす。

希少種：愛媛県野生動物の多様性の保全に関する条例（平成 20 年 10 月 1 日施行）
（令和 5 年 4 月 14 日一部変更）

■捕獲等の禁止…捕獲、採取、殺傷、損傷及び譲渡等を原則禁止

：環「環境省レッドリスト」もしくは、愛「愛媛県レッドリスト」掲載種

■カテゴリー区分…愛媛県レッドリスト2024（令和7年3月25日改訂）より引用

絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧Ⅱ類（VU）：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧（NT）：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足（DD）：評価するだけの情報が不足している種

要注意種（AN）※：愛媛県内の分布域全体を俯瞰すると、現時点で種として絶滅のおそれがあるものではないため、上記カテゴリー（CR~NT・DD）には該当しないが、県内の生物多様性の保全の観点から今後の個体数や生息条件の変化に十分に注意が必要があると考えられる種

※ 愛媛県独自で設定したカテゴリー

特定外来：「特定外来生物」

外来生物法で「飼育」、「生きたままの移動」、「よその池や川に放すこと」等が禁止されている外来生物。違反した場合、最高で個人では3年以下の懲役、もしくは、300 万円以下の罰金が科せられます。

条件付特定外来：「条件付特定外来生物」（令和5年6月1日から規制スタート）

外来生物法で「放出」、「輸入・販売・購入」、「頒布」、「販売等を目的とした飼育・繁殖」は禁止されています。

外来種：「生態系被害防止外来種リスト」

「我が国の生態系等の及ぼすおそれのある外来種リスト」に選定された種。

「その他海外や国内から持ち込まれた種」

魚の体のなまえ

